

居間、食堂、台所の 最底限の広さと 快適な広さ

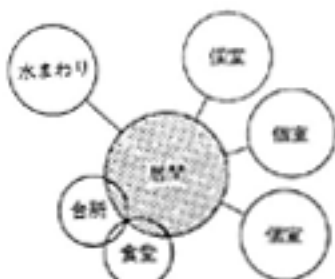
図・文/本多和夫

今回は、居間、食堂、台所の広さをテーマとします。それぞれの、最低限、あるいは適切な広さを求めてみました。生活スタイルに合わせて、これにゆとりなどを付け加えてプランを立てていくのがいいでしょう。

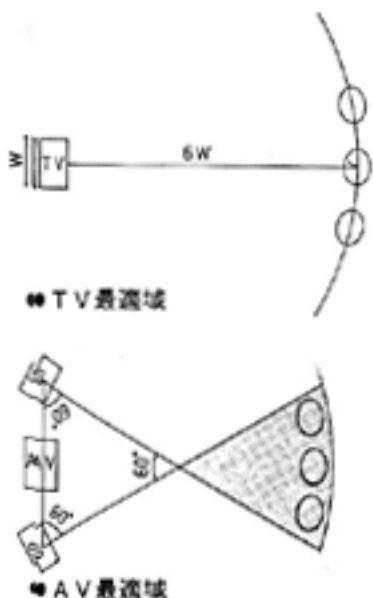
人それぞれ、家それぞれで生活スタイルは違いますので、一概に居間は何畳、食堂は何畳という数字は挙げておられません。自分の生活に合った居心地のよい家をつくるためには、その部屋で何をしたいのか、どう暮らしたいのかをまとめ、それをもとに部屋の広さやつながりを考えていきます。

居間の広さ

居間は、リビングダイニングキッチンを兼ね、

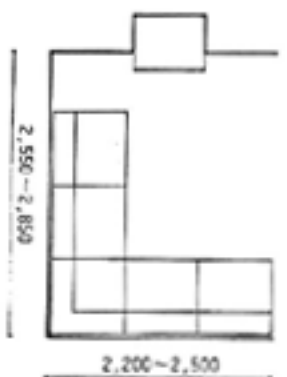
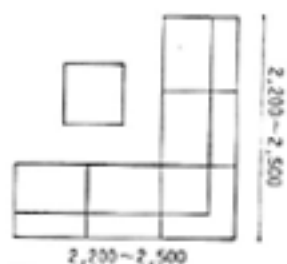


●ゾーニング
居間を中心に生活が広がる

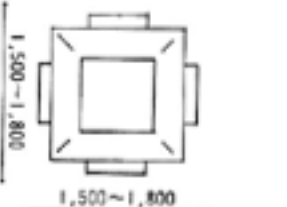


リビング、読書、娯楽、収納、ついでに、接客、AVライブラリ、ゆとりなどの居間の機能のきき、何を大切にできるかを、生活スタイルに合わせて考えます。そして、それに合わせた広さを思いついていくのがいいでしょう。

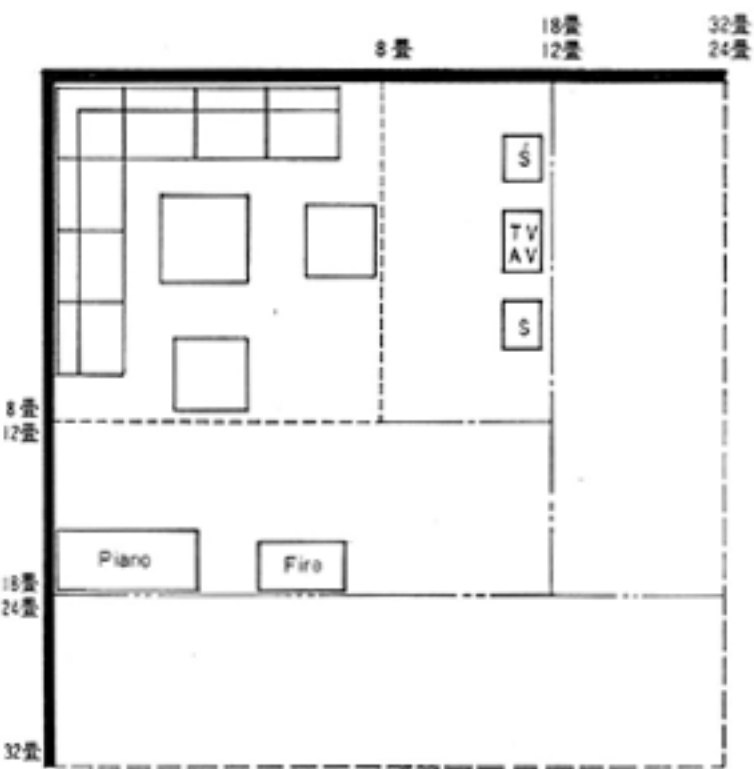
また、住まいの中心に居間を造って間取りを考えると、とても大切なことです。広さと機能（そして何が出来るか）は、0.8畳なら、6人掛けの居間セット、0.12畳なら、AVセットをプラスできる。0.24畳なら、キッチン、リビング、居間は、スリット。



●ソファの基準寸法



●コタツの基準寸法
(約2畳必要)

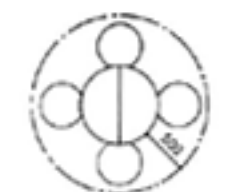
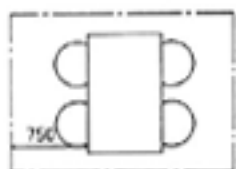
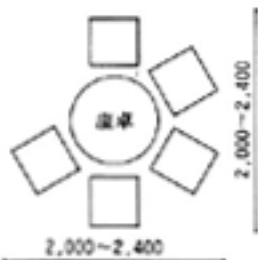


●居間の広さと家具配置

食堂の広さ

このように食堂のイメージをまとめている方が、

- 密が集まって楽しい食堂
- 朝日の入る東側の活動的な食堂
- 外の緑を見ながらの食事
- 立ちっかひのスペースで、来客と家来一掃に楽しい食堂



●食卓回りの寸法

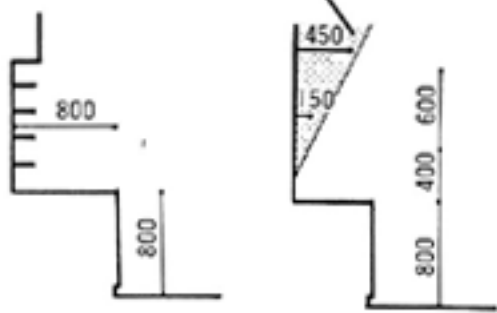
台所の広さ

台所は、食堂や居間、ユーティリティと密接な関係にありますので、それぞれの広さやつながりを考慮します。

例えば、居間・食堂・台所とワンルームにすればオープンになり、機能性・インテリア性も必要になってきます。台所+ユーティリティと居間+食堂に分ければ、台所は主婦が最も長くいる場所となりますので、機能+快適さが要求されてきます。

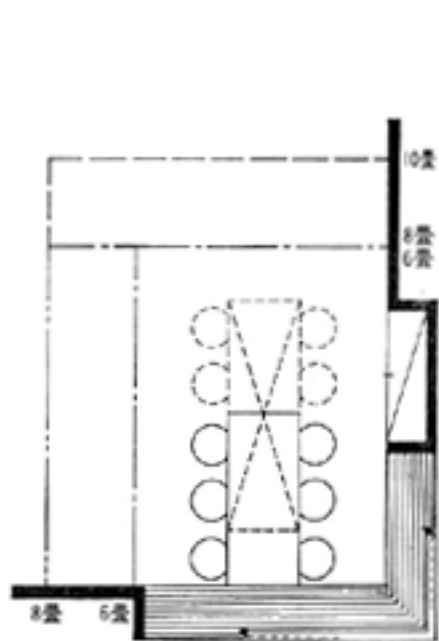
このことから台所は、ただ広くなるのではなく、ゆとりを確保し、2人入るので、動線を短くする工夫が大切です。また、キッチン・シンク・コンロの配置も重要です。

この中に壁を納めれば壁をぶつけない

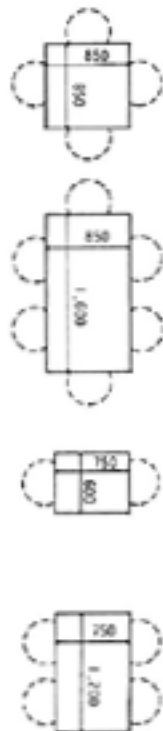


●手の届く奥行

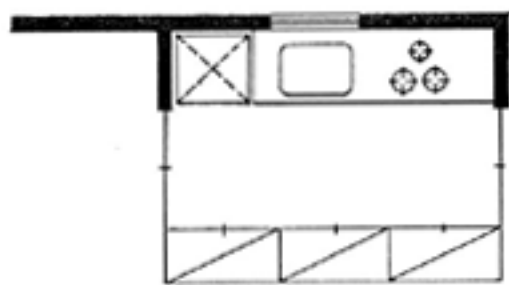
●台所の壁



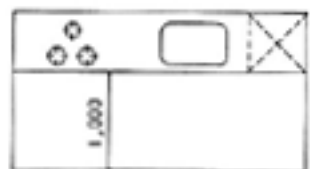
●食堂の広さと食卓の配置



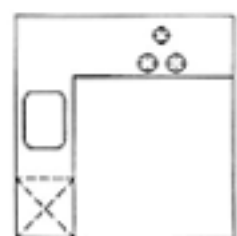
●食卓の寸法



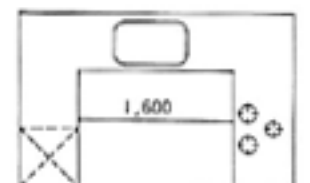
右勝手1型



左勝手1型



L型



コの字型

●台所のレイアウト例